



# 白鳳点描

## 学びを深める秋にしましょう

校長 川本 幸則

ついこの前まで夏の日差しを感じていましたが、あっという間に秋がやってきた感があります。業間とお昼の休み時間になると、運動場で元気に遊ぶ子どもたちの声が響いています。また、この原稿を作っている今は、運動会に向けての練習も仕上げの時期となり、運動場から元気な子どもたちの声が聞こえ、エネルギーをもらっています。

10月17日(火)・18日(水)と6年生が奈良・京都へ修学旅行に出かけました。お天気に恵まれ、いろいろと学びの多かった2日間でした。

各見学場所では、外国人の旅行者を多く見かけました。ここ数年は修学旅行に出かけても、新型コロナウイルス感染症への対応で小中高校生の修学旅行者が多く、一般の旅行者は少数でしたが逆転していました。人ごみの中、列だったり、少人数の班だったりで、行動しましたが、迷子が出ないか心配しながらの見学でした。

そんな中でも、6年生の児童は、真剣な眼差しで見学をし、しおりにメモを取っていました。奈良・東大寺の大仏殿では、大きな外観に驚きの声が上がリ、大仏を見上げてさらにその大きさに驚いていました。京都・金閣寺では、輝く美しさに目を見張っていました。

モノ作りが機械化された現代と異なり、全て人の手で創り上げている環境で、様々なものを作り上げてきた古人の知恵と努力に驚きと敬いの気持ちをもったことと思います。また、その時の時代背景も知ること、過去から続く我が国の歴史に思いを寄せたことでしょうか。本物と触れ合うことで、教科書や資料集だけでは得ることのできない学びができたと言えます。

また、旅行中の6年生の生活の様子は立派なもので、宿泊場所の聖護院御殿荘や2日間お世話になったバスの乗務員の方からお褒めの言葉をいただきました。各見学地では、マナーよく、あいさつをする児童を誇らしく見ていました。日頃からの積み重ねが表れていると思います。6年生にとっては、残り半年の小学校生活です。これからも最高学年として、下級生があこがれる存在として活躍してほしいと思います。

他の学年も貸切バスを使っての見学があります。すでに終了した学年もありますが、きっと見学地では本物に触れ合うことで、すばらしい学びがあると思います。その学びをさらに大きくするためには、事前学習も効果的です。訪れる場所について、少し知識をもって見学することができるとよいと思います。または、事後にもう一度、ご家族などで訪れることで、学びを深めることができます。家族の楽しい時間の中で、豊かに学ぶなど、心身ともに成長する機会をつくっていただければと思います。

~~~~~

先日、商業新聞のコラムで素敵な表現(「秋は冬の使者です」)を見つけました。

アフガニスタンの庶民のくらしを書いた『アフガンの四季』(中公新書)は40年以上前の出版。その中に著者佐々木徹さんが首都カブールで日本語学校講師をした際の挿話がある。黒板に「秋は〇〇です」という文をいくつか書いたら、生徒の一人が現地の言葉でこう言った。「秋は冬の使者です」 ※中日春秋 10月24日朝刊

アフガニスタンは内陸の山岳国で、秋には急激に気温が下がり冬を迎えるとのこと。その季節感を端的に表現した言葉で、四季を感じる表現が素敵だと思いました。